

あ み だ じ  
**阿 弥 陀 寺**  
 だ よ り

2012年 3月 1日 第 12号

発行  
 金剛山 阿弥陀寺  
 発行人 大谷 義文

☎ 861-2235 熊本県 上益城郡 益城町 福富 916

☎ (096) 289-0424 ☎ (096) 297-9161

✉ amidaji@s3.kcn-tv.ne.jp

郵便振替:01710-8-68921 加入者名:阿弥陀寺事務所



有明海に舞うカモメ

**絆 (きずな)**

大谷 義文

20年以上前の話である。年の暮れ、勤めていたお寺の台所で同僚数人とテレビを見ていた。華麗に舞う歌うアイドルの姿に興奮していたところ、突然画面が消えた。同時に「お前たち、日本の歌

ば聞かんか」と怒声。今は亡き恩師の仕業。別番組で「懐かしの歌謡曲」が放送中であった。

1月15日に勤めた宗祖親鸞聖人750回大遠忌では、オカリナ奏者、鄭光均師に演奏していただいた。大小様々なオカリナから、それぞれの音色で懐かしい曲がたくさん奏でられた。皆さん目を閉じ顔を上に向け聞き入っていらつしやる。やがて、哀調を帯びた「アリラン」が聞こえてくると、涙がこぼれすすりと泣く声聞こえてきた。私は、当時を知らない。飢えも、のどの渇きも知

らない。しかし、目の前には知っている方々が涙して悲しんでいる。

「われわれは後ろ向きに未来へ入ってゆく。あたかも行く手に背を向けてボートを漕ぐように」。人生に重ねた詩人の言葉だ。私には過去と現在しか見ることができない。しかし、どうだろう。まるで、最新鋭の高速船のへさきに立ち、双眼鏡を覗いては西へ東へキョロキョロと行く先を探してばかりいる。

「歌」の語源は「うたえ」という。古代より思い通りにならない日常を音に託し、言葉や文字で表し、空に向かい地に向かいうたえてきた。そんな生き方があったのだ。その声に気がつける、ご縁を「絆」というのであろう。そのはたらきを、「南無阿弥陀仏」と宗祖はうたえられた。

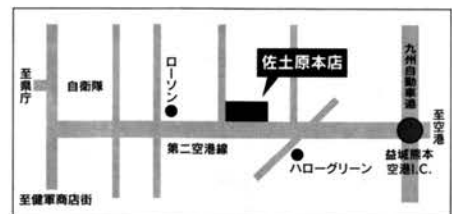


**佐土原本店**

熊本市佐土原1-12-1(佐土原バス停前)

電話 **096-360-8488**

営業時間  
 昼/11:00~15:30(オーダーストップ15:00)  
 夜/17:00~21:30(オーダーストップ21:00)  
 定休日/毎週火曜日(祝日の場合翌日振替)  
 7・8月、12・1月は不不休



<http://www.kawasen.jp/>

リトル・ガール  
Little Girl あや  
第8回 持久走大会

30分中50位  
目指して  
頑張るぞ

「あ、今40位くらいだぞ!!」  
「どうして!!」  
「何この音!!」  
「こええ!!」

「お疲れ様  
おしなな  
おもしろい  
だった」

# 宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要



中井賢隆師

1月15日(日)、寒い日ではあったが、速近からたくさんの方にお参りをいただいた。また、お斎の準備も早朝からお手伝いしていただいた。おかげさまで、阿弥陀寺における宗祖親鸞聖人750回大遠忌を勤めることができた。

午後1時、始まりの合図である喚鐘が響く。そして、大倉正之助師の大鼓の音、そして声で法要は幕を開けた。一同で「正信偈」、念仏、和讃を拝読した。その後、中井賢隆師に「教えは時代を超えて」という御法話をいただいた。

最後に、鄭光均師に「冬を称えて」と題してオカリナの演奏をしていただいた。



大倉正之助師

## 教えは時代を超えて

### 聴聞

中井賢隆師から「教えは時代を超えて」という講題のもと大遠忌の意義をお話された。浄土真宗は、「一門の徒輩だから「門徒」であると言われた。考えもしなかった言葉の意味を教えていただいた。また、ご子息の幼少時のお話が印象に残った。口の周りが汚れているのを見かね「鏡を見ておいで」と言う返ってきた。

## 安田登先生の寺子屋



甲骨文字

1月18日(土)午後4時から、待望の「安田登先生の寺子屋」が実現した。先生は、阿弥陀寺で毎年夏に行われる「ごも能チヤレンジ」の講師である。講題は「文字を学ぼう」。孔子の時代には存在しなかった漢字を取り上げ、孔子が指南した意味を追究された。さらに、殷王朝時代の甲骨文字をユニークなヒントのなかで解説した。東京、福岡から20名の方が参加された。次回は6月17日。(詳細は4面)

孔子の「論語」に「四十にして惑わず」という各年齢ごとの境地を記した文章があるが、「惑」という漢字は、孔子が活躍する時代にはなかった。「惑」から「心」を取ると「或」になり、この漢字はあった。これに「土」で「地域」の「域」、四角で囲うと「國」になる。これは、境界を表す文字だから孔子は、「四十にならぬ惑わなくなった」ので



私たちに心が生まれた時に、過去が生まれ現在を知る。そして未来を考えるようになった。その心の使い方を指南したのが孔子であり釈迦でありイエスである。混乱している時代に生きる私たちは、何か重大なものを見落としているのだ。どうぞ皆さま、この機会に共に学びましょう。

仏は常にいませども  
現ならぬぞあはれなる

仏様は私たちのそばにいつもいらっしゃるけれど、現実の世界ではこの眼で見ることが出来ないけれど、まだ人が寝静まっている時の夢の中に、ちらりとお姿をお見せになることがある。



鄭光均師

言葉は「四角かったよ」。「仏の教え」という鏡はあるのに、自身の本来の姿が見えない人間の愚かさをお話された。さらに先入観が、いかに私たちが真実から遠ざけているか、数字を使ったクイズで説明された。最後に「ご縁とはいただくものではなく、そのものが私を形づくっているのだ」と話された。どこまでも自分の都合で物事を見てしまう私に気づかされた。(栃原)

当店では、フランス風のお菓子を、楽しく、おいしく召し上がって頂けますよう、心を込めてお届けいたします。

フランス菓子専門店  
ポーン・ヌフ  
Pont・Neuf  
Dessert et gâteau

〒862-0970 熊本市渡鹿2丁目10-1  
TEL 096-364-4887 FAX 096-364-4887  
営業時間 AM9:30~PM8:00

ギフト用クッキーの詰め合わせも、贈り先、ご予算に合わせてご用意致しますので、お気軽にお申し付けください。

※お電話での注文、ご予約も承っております。



阿弥陀寺 様でのお葬式

ファミリープラン (家族・親族の安心プラン) 30万円より  
他のプランもごさいます。 以下の内容が含まれます。

御棺一式 納骨一式 霊柩搬送 ドライアイス 遺影写真 生花祭壇

含まれないもの・・・ 返礼品、食事、火葬料金

想いを込めた送り方  
想送の木山葬儀社

お問い合わせは! (24時間)  
益城町宮園517-3 096-286-4640  
携帯 080-5214-4640  
メール info@kiyamasougi.com

# 春・彼岸会法要

日時・3月20日(火)・春分の日

午後1時30分お勤め(午後4時まで)

法話・渋谷晃師(本山佛光寺・総務部長)

講題・「伝わる教え」

# 安田登先生の寺子屋

日時・6月10日(日) 午後3時から5時(本堂にて懇親会あり)

※講座参加費・浄財・懇親会費1000円

講師・安田登師(能楽師・朝日カルチャーセンター講師)

講題・「文字を学ぼう」

※6月9日(土)午後7時より、安田先生による講座「古典に親しむ」を開催します。

必修!高校受験生参加されたし。興味のある方は自由に参加してください。参加費無料。

## 猫伏石の声

### ○退職のご報告

阿弥陀寺開山から、共に歩んできた伊藤藤康が昨年、年末で退職しました。1月から、三重県の実家で暮らしています。今後は、共に築き上げてきた歴史が壊れぬように努力していきます。皆様へご報告が遅れましたこと、心からお詫び申し上げます。

### ○新人のご紹介

昨年12月から、阿弥陀寺に勤めている栃原真人と申します。昭和53年12月生まれ33歳です。実家は、熊本市上水前寺にあり、毎朝通っています。5年ほど前から、僧侶として生きていくことを考えるようになりました。お参りに伺わせていただいておりますが、まだ慣れており、ご迷惑をおかけ

阿弥陀寺での法要は、どなた様もご自由にご参詣してください。心よりお待ちしております。



することが多々あるかと思いますが、皆さまとの出会いを通して学ばせていただきました。ご指導よろしくお願ひ申し上げます。

## 平成24(2012)年・年回忌表

1周忌 = 平成23 (2011) 年
3回忌 = 平成22 (2010) 年
7回忌 = 平成18 (2006) 年
13回忌 = 平成12 (2000) 年
17回忌 = 平成8 (1996) 年
(23回忌 = 平成2 (1990) 年)
25回忌 = 昭和63 (1988) 年
(27回忌 = 昭和61 (1986) 年)
33回忌 = 昭和55 (1980) 年
50回忌 = 昭和38 (1963) 年

右記が、本年の年回忌の一覧です。ご法事の日程が決まりましたら、お早めにご連絡ください。ご不明な事、ご相談は、ご遠慮なくお寺までおたずねください。(096・289・0424)

### 本の紹介



『身体感覚で「芭蕉」を読みなおす。』

安田登 著

出版社・春秋社

定価(1800円+税)

読んでから歩くか、歩いてから読むか。「おくのほそ道」謎解きの完全ガイド。

旅へようこそ!

なぜ芭蕉は東北へ向かったのか。秘められたパワースポット「歌枕」と、旅人の目の前に異世界を出現させる「術語」から、日本人なら誰もが知っている古典をわかりやすく徹底解説!古文や俳句の知識は一切必要なし。どんな風景が浮かんでくる「おくのほそ道」

## 葬儀・祭壇 熊本県儀式共済グループ

ハタ才葬儀社 水前寺斎場

熊本市国府1丁目12-3  
TEL.096-364-3220 (代)

豊住葬祭 豊住斎場

熊本市河原町23  
TEL.096-324-4848 (代)